

教育研究業績

学部： 芸術学部 学科： 芸術学部

領域： 美術領域

氏名	秋吉 風人	職名	准教授
教育活動	[学部] 美術実技（洋画）3-1, 美術実技（洋画）3-2, 洋画実技Ⅱ - 1, 洋画実技Ⅱ - 2		
学位	芸術修士		
学歴	平成 13 年 3 月 名古屋芸術大学芸術学部絵画科洋画コース卒業 平成 15 年 3 月 名古屋芸術大学大学院美術研究科同時代表現研究修了		
職歴	平成 18 年 東京の TARO NASU ギャラリーに所属し活動（現在に至る） 平成 26 年 ドイツ・ベルリンの SEXAUER ギャラリーに所属し活動（現在に至る） 平成 22 年 吉野石膏美術振興財団在外研修員（ドイツ・ベルリン） 平成 23 年 文化庁新進芸術家海外研修員（ドイツ・ベルリン） 平成 25 年 ポーラ美術振興財団在外研修員（ドイツ・ベルリン） 平成 30 年 名古屋芸術大学芸術学部芸術学科美術領域 准教授（現在に至る）		
専門分野	現代美術		
研究課題	色というよりもむしろ現象に近い金の絵具で空間が構成された絵画《Room》、一枚の板と絵具だけという絵画に必要な最小限の素材のみを使用し、絵具を積み上げる事で絵画と彫刻の境界を交差する作品《A certain aspect (mountain)》、絵画制作に使用する為に作られたあらゆる道具を駆使し、それらから生まれる様々なテクスチャーにより構成される絵画《something too much》など、描くという行為への執着と共に「絵画」という概念の解体と再構築を実験的に続ける。		
教育研究業績	[主な個展] 「greedy life in the room that bores me」 Office Baroque Gallery アントワープ・ベルギー（平成 21 年） 「Golden Period」 VOLTA NY ニューヨーク（平成 21 年） 「I have no pick-up lines」 TARO NASU 東京（平成 22 年） 「such a luxurious silence」 TARO NASU 東京（平成 23 年） 「A FAITHFUL ANTINOMY」 Longhouse Projects ニューヨーク（平成 25 年） 「no secrets」 taimatz 東京（平成 26 年） 「Adherence」 Sexauer Gallery ベルリン（平成 27 年） 「if nothing else」 NON Berlin ベルリン（平成 28 年） 「something too much」 TARO NASU 東京（平成 28 年） 「All for One」 Sexauer Gallery ベルリン（平成 30 年） 「We meet only to part」 TARO NASU 東京（平成 30 年） 「絵画の何か Part 3」 Minatomachi POTLUCK BUILDING 名古屋（平成 31 年）		

[主なグループ展]

「peninng Exhibition II」 TARO NASU 東京 (平成 20 年)

「THE ECHO」 ZAIM 神奈川 (平成 20 年)

「4 5 0」 TARO NASU OSAKA 大阪 (平成 20 年)

「Summer Group show」 Jochen Hempel ライプツイヒ・ドイツ (平成 21 年)

「絵画の庭ーゼロ年代日本の地平から」 国立国際美術館 大阪 (平成 22 年)

「街へ出た『会画に庭』」 innter office 大阪 (平成 22 年)

「あいちトリエンナーレ 2010」 愛知県美術館 愛知 (平成 22 年)

「A r t for Tomorrow」 トーキョーワンダーサイト渋谷 東京 (平成 23 年)

「ask the wine」 MUZZ 京都 (平成 23 年)

「カウボーイとフォトン」 CAPSULE 東京 (平成 23 年)

「クロスカウンター・日英アーティスト共有展」 XYZ collective / CAPSULE 東京 (平成 23 年)

「RBG」 豊田市美術館 高橋悦郎館 愛知 (平成 23 年)

「小さな絵」 1223 現代絵画 東京 (平成 24 年)

「COMMONALITIES」 A l t e s F i n a n z a m a t ベルリン (平成 24 年)

「一枚の絵の力」 NADiff 東京 (平成 24 年)

「THE ECHO-Although I a m s t i l l a l i v e」 クンストラウム・クロイツベルク / ベタニエン ベルリン (平成 24 年) "

「D o n o t t o u c h !」 豊田市美術館 愛知 (平成 25 年)

「o n e b u i l d e o n e g i l d」 CAPSULE 東京 (平成 25 年)

「THE ECHO - Spreading of Light」 ケルン日本文化会館 ケルン・ドイツ (平成 25 年)

「VOCA 2014 現代美術の展望ー新しい平面の作家たち」 上野の森美術館 東京 (平成 26 年)

「Group Show」 Jpchen Hempel ライビツイッヒ・ドイツ (平成 26 年)

「From A Quiet Distance」 P a r k h a u s デュッセルドルフ・ドイツ (平成 26 年)

「記憶のイメージ/イメージの記憶」 BankART Studio NYK 横浜 (平成 26 年)

「Temporral Measures」 White Rainbow ロンドン (平成 26 年)

" 「Futo Akiyoshi ,Abdolreza Aminlari, Keiko Narahashi and Robert Store」 Longhouse Project ニューヨーク (平成 27 年) "

「新収蔵作品展」 豊田市美術館 愛知 (平成 27 年)

「19 t h D O M A N I」 国立新美術館 愛知 (平成 28 年)

「Paper Works」 taimatz 東京 (平成 29 年)

「ポーラアネックスミュージアム」 ポーラアネックスミュージアム 東京 (平成 29 年)

「All' IDEA DI QUEL METALLO」 V D B ベルリン (平成 30 年)

「The Myriad Forms of Visual Art」 国立国際美術館 大阪 (平成 30 年)

「1 . 2 . 3 . 4 . 5 」 rin art association 群馬 (平成 30 年)

「The1980s Zeitgeist as a Point of Departure」 国立国際美術館 大阪 (平成 30 年) 「ア
イテアートクロニクル 1919-2019」 愛知県美術館 愛知 (平成 31 年)

「世界を開くのは誰だ？」 豊田市美術館 愛知 (平成 31 年)

所属学会 団体等	特記事項なし
社会的活動	<p>[平成 30 年-31 年に関する展覧会以外の活動内容など]</p> <p>個展「All for One」Sexauer Gallery (ベルリン)を開催 (平成 30 年) 展覧会カタログが出版される</p> <p>アートフェア Basel Hong Kong (香港)へ TARO NASU ギャラリーから出品 (平成 30 年)</p> <p>グループ展「ALL'IDEA DI QUEL METALLO」ERBAND DEUTSCHER BÜRGERSCHAFTSBANKEN e.V.(VDB) (ベルリン)に出品(平成 30 年) 展覧会カタログが出版される</p> <p>雑誌「宣伝会議」の表紙に作品が使用される (平成 30 年)</p> <p>個展「We meet only to part」TARO NASU (東京)を開催 (平成 31 年) 美術手帖にて批評家の沢山遼氏による批評が掲載される</p> <p>東京芸術大学大学院修了展にて大学院生の作品講評を行う (平成 31 年)</p> <p>アートフェア code artfiar (コペンハーゲン)へ SEXAUER から出品 (平成 31 年)</p> <p>個展「絵画の何か Part 3」Minatomachi POTLUCK BUILDING 名古屋 (平成 31 年) にてトーク開催 / 中日新聞にて豊田市美術館学芸委員の千葉真智子氏による批評が掲載される / 芸術批評誌 REAR にて美術批評家の安井海洋氏による批評が掲載される</p> <p>グループ展「アイチアートクロニクル 1919-2019」愛知県美術館へ出品 (平成 31 年) 展覧会カタログが出版される</p>
その他	特記事項なし